

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04560

研究課題名(和文) 教師の省察を促進・阻害する要因の解明

研究課題名(英文) Factors promoting and hindering teacher reflection

研究代表者

若木 常佳 (Tsuneka, Wakaki)

福岡教育大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：90454579

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：省察力は「学び続ける教師」であるために不可欠である。しかし、省察力育成に培う基礎的研究として、省察の促進・阻害要因の解明が十分ではない。そこで、省察の促進・阻害要因の解明に取り組んだ。研究は、教職大学院の院生の記述の分析を中心に行ったが、コロナ禍で延長していたオランダの教師教育の現場の視察も2023年3月(2022年度)に実施することができた。

こうした研究成果として、促進要因5点と阻害要因8点を導出した。特に院生のレポート分析から、省察発生場面、省察を忌避する感情を見いだすことができたことは大きい。上記に加え、省察を促進させるため必要なことについても考察し、5点を見出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

省察、リフレクションの研究では、省察力は何か、どう育てるのかという視点からの追究は多い。しかしその前に、省察の促進・阻害要因の解明についても意識を向ける必要がある。また、省察の内実を自己探究とした場合、自己否定につながるのではないかと恐る抱く教員も存在する。省察を行うことを前提ではなく、それが必要ではあるが、そこに至れない理由や、継続できない理由を解明しなければならない。

そうした現状に対し、本研究の成果は、促進・阻害の状況をイメージ化することができ、省察発生場面、省察を忌避する感情を捉えることもできた。本研究の成果は、省察、リフレクションに対する基礎的研究として学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：Reflective competence is essential for being a 'teacher who keeps learning'.

However, as basic research to cultivate the ability to reflect, the clarification of the factors that promote and inhibit reflection is not sufficient. Therefore, we worked on clarifying the factors that promote and inhibit reflection. The research focused on analysing the descriptions of graduate students in the teaching profession, but it was also possible to carry out a site visit to teacher education in the Netherlands in March 2023, which had been extended by the Corona Disaster. As a result of this research, five facilitating factors and eight inhibiting factors were derived. It is particularly significant that we were able to identify situations in which reflection occurred and feelings of avoidance of reflection based on the analysis of graduate students' reports. In addition to the above, we also considered what is necessary to promote reflection and were able to identify five points.

研究分野：教師教育

キーワード：リフレクション 教師教育 要因の解明

## 1. 研究開始当初の背景

教師の教育場面での選択・思考・判断は、教師個々の内面に依拠するため、教師の力量伸長には、自己の内面を対象としたリフレクションの集積が不可欠である。

しかしながら、授業研究会の参加者の発言や意識の多くが授業を担当した教師の考えの追究や授業展開に集中しており、自己の内面にベクトルを向けた発言が少ないことがわかった。しかもこの傾向は、若木（2015）「授業場面における教師の『実践的思考様式』」でも明らかにしたように、学校現場で若年層教師の指導・育成にメンターとして関わる熟達者に多く見られた。

こうした事実に対応するため、Korthagen の教師教育についての理論と具体ツールを用いた学習を pilot study として教職大学院で実施した。それらから、継続的にリフレクションを行う力を育成することが必要であり、その内容面と順序について見出すことができた。しかし、継続的なリフレクションを自身で実施するためには、リフレクションを促進・阻害する要因の導出が不可欠であることに思い至った。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、教職大学院での学習内容を対象として、リフレクションを促進・阻害する要因を解明することである。これは、リフレクションの力量を形成するための基礎的研究となる。

## 3. 研究の方法

(1) 先行研究の分析

(2) 院生の記述、自律性の確保が見出される教育者（学校現場での経験を持っている方）に対するインタビューを収集して分析し、要因を推察した上で、何が関係しているのかを見出す。

(3) (2)の内容を学習内容とマッチさせ、省察の促進と阻害の発生メカニズムを追究して、促進と阻害のパターンを見出す

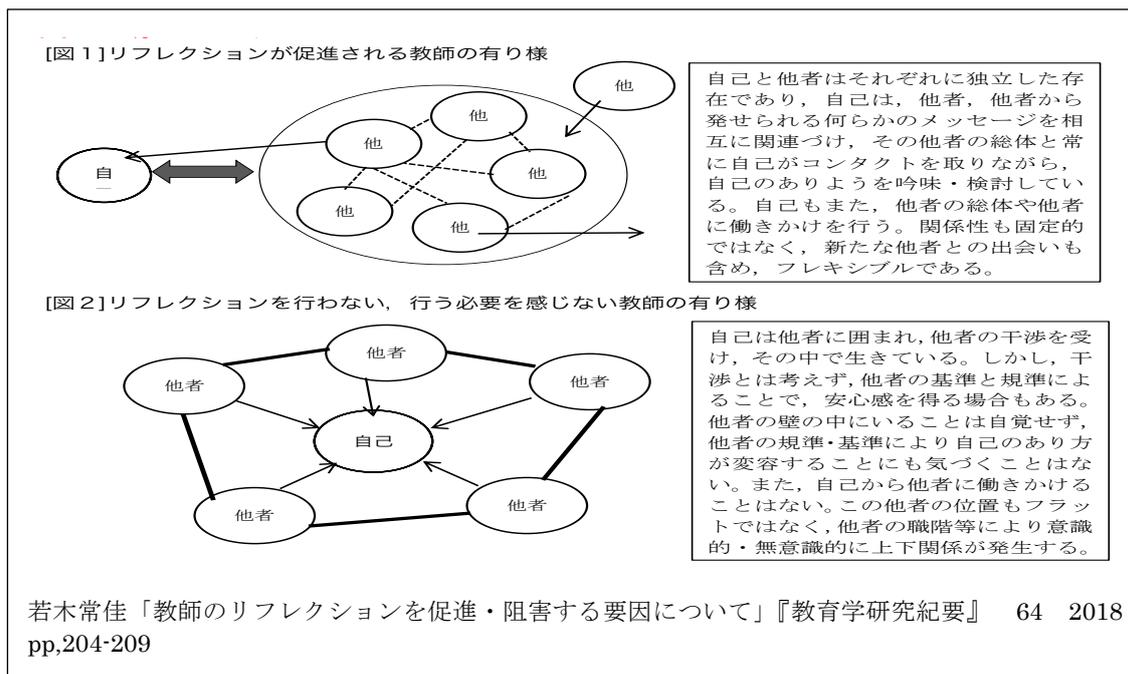
(4) 省察の促進（継続性も含む）に影響を与える学習内容を検討する

## 4. 研究成果

省察力は「学び続ける教師」であるために不可欠である。しかし、省察力育成に培う基礎的研究として、省察の促進・阻害要因の解明が十分ではない。そこで、省察の促進・阻害要因の解明に取り組んだ。

研究は、教職大学院の院生の記述の分析を中心に行い、2023年3月（2022年度）のオランダの教師教育の現場の視察を含め、次に挙げる6点の研究成果を得た。①促進要因5点と阻害要因8点の導出。②省察を行う院生個々に対する環境整備の具体の把握。③リフレクションが「獲得的レジリエンス要因」（平野 2018:62）の強化に有益なことの把握。④養成機関でのリフレクションの学習の充実が違和感への感度を高め自身によるリフレクションの開始につながることの発見。⑤教師教育者が視野（学問領域、実践知、自己の特性）に自覚的になることの必要性の指摘。⑥自己の学びの整理と選択を集積すること、大学での授業と実習により、多様な人々と接することを通し、教え方を見て自分で試み、考えて身につけて、自分にマッチする方法を見出すように促し、自分のスタイル、自分の考え、教育観を見つけて出すように仕向けることの必要性。このうち、①からは、[図1]に示すような省察（リフレクション）を促進・阻害する環境やメカニズムを見出すことができた。また、④におい

て、院生のレポート分析から、省察発生の場面、省察を忌避する感情を見いだすことができたことは大きい。



これらから、日本における教師の省察を促進するための手立ての充実を具体的に考えることができた。

また、上記の成果は日本教師教育学会（2018/11/17）（2019/03/10）、論文「リフレクションへの志向性の形成を促す学習内容に対する提案」等、以下に示す論文で発表している。

- ・若木常佳「教師が行うリフレクションについて - Korthagen と Kegan から -」（福岡教育大学紀要 67 pp.241-255,2018）
- ・若木常佳「教師のリフレクションを促進・阻害する要因について」（教育学研究紀要 64 pp,204-209, 2018）
- ・若木常佳他 3 名「オランダでの研修報告：リフレクションの促進との関係に着目して」（福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)年報 9, pp.319-332, 2019）
- ・若木常佳「リフレクションへの志向性の形成を促す学習内容に対する提案：教職大学院での実践の具体に基づいて」（教育学ジャーナル 25 中国四国教育学会 pp.55-63, 2020）

さらに本研究の成果は、2020年から開始した基盤研究（C）「自己探究に基づくリフレクションへの志向性の形成を促すカリキュラムの開発」（研究代表：若木常佳）にも役立つものとなっている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 若木常佳	4. 巻 11
2. 論文標題 教師養育者による自己探究の実際	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福岡教育大学大学院教職大学院年報	6. 最初と最後の頁 187-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 若木常佳	4. 巻 68
2. 論文標題 リフレクションとレジリエンスの関連についての考察：今後の教師教育の手がかりを求めて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 133-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 若木常佳	4. 巻 25
2. 論文標題 リフレクションへの志向性の形成を促す学習内容に対する提案：教職大学院での実践の具体に基づいて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 55-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 若木常佳	4. 巻 64
2. 論文標題 教師のリフレクション力を促進・阻害する要因について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育学研究紀要	6. 最初と最後の頁 204-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 若木常佳・池上詠子・占部真澄・春日清美	4. 巻 9
2. 論文標題 オランダでの研修報告-リフレクションの促進との関係に着目して-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報	6. 最初と最後の頁 319-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂井清隆・若木常佳	4. 巻 9
2. 論文標題 教職大学院の教育内容についての検討-日本の学校教育に関する教職大学院教員と院生の意識の考察-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報	6. 最初と最後の頁 63-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三木祐佳里・若木常佳	4. 巻 9
2. 論文標題 教師の意識の変容の考察-学習者の自己学習力育成に関わる過程から-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報	6. 最初と最後の頁 113-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若木常佳	4. 巻 第67号 第4分冊
2. 論文標題 教師が行うリフレクションについて-KorthagenとKegan-から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 241-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 若木常佳	4. 巻 8
2. 論文標題 Y氏の記録(週案) - 1年目-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報	6. 最初と最後の頁 193-200
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計7件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 若木常佳
2. 発表標題 教師教育者の自己認識と専門職性に関する実践的研究
3. 学会等名 日本教師学学会20回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若木常佳・宮本浩治・矢野博之・藤原顕
2. 発表標題 リフレクションへの指向性の育成について-学部と教職大学院の取り組みの実際-
3. 学会等名 日本教師教育学会第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若木常佳
2. 発表標題 リフレクションの志向性形成の試み-「自己探究」を促すMy Book作成-
3. 学会等名 九州国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若木常住
2. 発表標題 教師のリフレクション力を促進・阻害する要因について
3. 学会等名 中国四国教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢野博之・若木常住
2. 発表標題 リアリスティック・アプローチによる教員研修の可能性-静岡県総合教育センターでの実地調査に基づいて-
3. 学会等名 日本教師教育学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 若木常住
2. 発表標題 教師教育者の自己認識と専門職性に関する実践的研究
3. 学会等名 日本教師学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若木常住
2. 発表標題 リフレクションのためのツールとその意義
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 全国大学国語教育学会編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東洋館出版	5. 総ページ数 7
3. 書名 国語科教育における理論と実践の統合	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------